

第12回武蔵野市における地上部街路に関する話し合いの会 ご意見カード

・ご意見カード記入者10名（内公表希望9名）

整理番号	ご意見
1	<ul style="list-style-type: none"> ・地下部分だけでも余りうれしくないのに、地上部などは不用だと思えます。(町の分断、空気汚染、騒音など(用地買収)) ・1966年に計画されていて、その後泣かず飛ばず、ここに来てゾンビのようによみがえって来たのは不誠実だと思えます。 ・都が云っているようにこの地域に環境、くらし、防災等必要なかどうか、議論の余地はない。都の云っているようなことは地域としては全く問題、課題もないし、これを議論するのは意味がないと思えます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・PM8:15頃から濱本さん、河田さんの意見に賛成するものです。「話し合い」になっていない。そもそも構成員に都が入ることがおかしい。市はどうして発言しないのか。話し合いでなく、都の説明会、いや、お願いの会になっている。それも説得力がないものでしかない。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・廃止を含めて検討するという前提が道路ネットワークとしてなら、大泉の1キロだけ先に進めるのは断じて許されない！！ ・武蔵野で廃止となったら大泉の1キロはどうするのか？回答を求める。 ・検討のプロセスは住民との約束であり、7段階の3番目までなのに結論を出した正当性を述べよ。 ・機能を失う道路、権利者の生活再建は国が行う事であり、そのように公表してきたのだ。大泉の問題は共通の問題である。 ・小口氏は事務局なら発言するな！武蔵野の構成員の指摘はその通りです！いんちきは見てるぞ！河田構成員の意見は当たり前だ！ ・小口氏は都の考えを押し付けるな。外環の2は必要なし！
4	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の考え方に添った資料、データのまとめ方だけではなく、市民の意見(多数・少数)をもきっちり情報として集約する必要がある。 ・資料はもう少し分かりやすく体系的につくる必要がある。 ・都の3つの考え方は、(市民の4つの考え方に対して)情報のコントロールであって、“真の必要性の議論”をする情報整理がなされていないと思えます。 ・東京都は“外環その2”の必要性について、詳細な「リスク-ゲイン分析表」を作って説明すべきだ。 ・「外環その2」の関係体系図と意思決定をするための構成要因図を作成する必要がある。 ・武蔵野市の市行政として“外環その2”のリスク-ゲイン分析図を作る必要がある。

5	<ul style="list-style-type: none"> ・大泉JCT一部事業認可に関して、何故「外環の2」の名称で道路が整備されるのか納得できない。この先、この事業化が残りの8kmに影響がないはずがなく、現に練馬区は取組方針（素案）を発表し着々と「外環の2」計画を進めようとしている。 ・最初に決めた「廃止を含めた4つの案で話し合う」ということを都の担当者がかかることによりあやふやにしていく行政のやり方は真剣に議論している市民の意見、思いをないがしろにしている以外のなにもものでもない。小口課長は「廃止も含めた4つの案」で話し合っていくときちゃんと発言すべき。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・外環の2としての名称で大泉地域を着工するのはおかしい ・廃止を含めて考えることをハッキリさせ、話し合いをすすめてほしい。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都のインチキ、ゴウマンさに呆れた。こんなスタンスでは話し合いの会はいつまでもまとまらない。会の混乱は全て東京都の責任。小口課長は辞職して、もっと誠実な人を入れて会を進めてほしい。 ・練馬区の事業認可を得た1kmについては“外環の2”の一部でないことをはっきりさせ、残りの8kmとは切り離してほしい。“外環の2”という冠は絶対にかぶせないでほしい。 ・出した意見は必ず公表・回答して下さい。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・前回のご意見カード誤記がある。「淀橋…」でなく「淀川…」が正しい。全く、こちらの言わんとすることを理解できる知識を持ちあわせてない。（正確に覚えてないが、岩波書店発行のたしか著者は河田…「ダムなんかいらんが」が必要ですか、淀川（水系）流域委員会」というようなタイトルの本） ・外環の2の大泉の事業認可をこの話し合いの会で事前に説明しなかったことは、都の不誠意極まりない。今後、それ以外は話し合いのプロセスを大事にすると言っても全く信用できない。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・外環の2、1kについて、本線計画の段階で問題があることはわかっていたことなのに、その話が本線検討の時に出ていないで、現在出してきたのは、やはり、都と国は地元をだましているということです。 ・この原因は、地上の外環の2や附属街路などの話をつめないうちに本線地下を決定してしまったことにある。この話し合いの会が紛糾するのも当然のこと。都、国、市に対する信頼が全くないから ・今日の小口さんの最初の発言によって、都の態度がますます信頼できないと思えてきた。司会者は市民構成員に向かっていないで都に対して話すべきではないか。YesかNoかはっきり返答させるべき。 ・堀井課長「話し合いの会を尊重すると都が言っている」ことを明記せよ。それならば、この会は決議する場ではないとはいえ、話し合われた内容を無視することはできないはず。

10	<ul style="list-style-type: none">・大泉の事業認可は外環の2として行われているが、赤見発言の練馬1kmと残り8kmとはちがうということを「外環の2」としてオーソライズしたのと同じ分量で、はっきりと都として報道すべきである。・どのような聞き方をしても市民側の意見の方が理論的に受けとれる。・小口課長は事務局を離れ、都の立場で主張すれば良い。それなら他の構成員と議論には入れる。
----	--